

# 山口県立下関工科高等学校

高校生による地域に科学の楽しさを伝える活動



©下関市

## 化学を通して地域の人をつなぐ

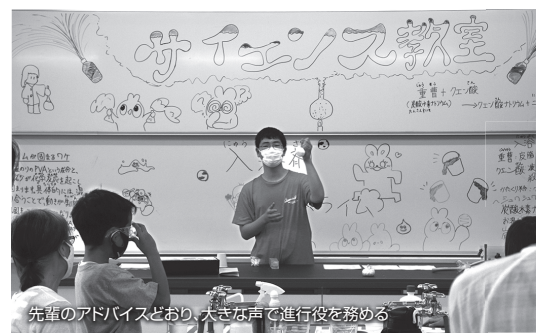
### 小学校教諭向け教室の依頼も

本州最西端の下関市に位置する山口県立下関工科高等学校の化学研究部は、前身である下関中央工業高校化学工業科時代の2010年から、地域の児童や保護者を対象に科学教室や出前授業を行ってきた。近年では、町づくり協議会などからの地域イベントへの出展依頼や、小学校教諭向けのプログラミング教室の開催依頼も来るようになってきている。

担当の桑野弘美教諭は「先輩たちからノウハウが受け継がれているので、実験の選定や対象人数に応じた内容の検討も部員たちに任せています」と説明する。とはいえ、昨年は新型コロナウイルスの影響でイベントが開催できず、この7月に再開した科学教室は、活動の中心となる2年生にとってもほぼ初めての経験となった。



理科好き、化学好きが集まる化学研究部



先輩のアドバイスどおり、大きな声で進行役を務める

#### ●実施担当

桑野弘美 教諭

#### ●活動のモットー

質問に対してわかりやすく説明するスキルを身につけてほしい。それが、大人しい生徒でも一歩前に入る自信につながる。



太陽光で色が変わるスライムに歓声があがる



重曹やクエン酸を用いた入浴剤(バスフォーム)づくり



分量を間違えないように、慎重に

### コロナ禍でも受け継がれたバトン

満を持しての科学教室には予定を超える申し込みがあり、3日間のうち急遽2部制で開催する日もあった。司会進行を務めた2年生の米田凌さんは「午前の部は緊張しすぎましたが、午後は予備実験などで準備してきたことを思い出して、伝えるべきことを整理して伝えられたと思います」と振り返る。

翌日、そんな先輩のあとを受けて進行役を務めた1年生の金子拓生さんは「説明は大きな声で」という先輩たちのアドバイスもあって落ち着きました。小学生たちの驚く声や「ありがとう」という言葉がうれしかったです」とはかんだ。これを聞いた桑野教諭も「そうした声が生徒たちの自信と成長につながっていくのだと思っています」と微笑む。

新型コロナの影響で途絶えかけていた先輩から後輩へのバトンだが、「化学を通して地域の人たちをつなぐ」という部員たちの地域貢献への思いとともに、しっかりと受け継がれていた。

(個別助成)

学校概要



2016年度に下関中央工業高校と下関工業高校が統合して開校。機械工学科、応用化学工学科など4学科を設置している。

設立: 2016年  
生徒数: 570人  
所在地: 山口県下関市富任町4丁目1番1号

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索